

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら若松花野路教室			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日		～	令和7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数)	36名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～	令和7年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月 20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の連携のもと、支援の統一を図り、保護者やこども達のニーズに合った支援の提供を行なっている。必要に応じて支援方法の検討を随時取り組むより良い支援を目指している。	定期的な会議の時に、それぞれのこどもについて支援プログラムの再確認を行う場を設けている。	定期的に、勉強会を開催し、職員1人1人のスキルアップを行なえるようにしていきたい。外部の勉強会等、参加する機会を作りたい。
2	戸外活動を通して公共機関を使う練習を行ない、公共におけるマナーやルールを身に着ける練習を行なっている。	場面の切り替えやルールが守れない場合は職員がマンツーマンで対応しクールダウンを行えるように工夫している。また、必要に応じて集団から離れて職員と2人になり話の軽重が出来る機会を作ります。	毎週土曜日に、屋外活動を実施しており屋外に出る前に事前にルールの確認を行うようにしていく。
3	朝礼、終礼でこどもの情報の共有を行ない、統一した支援を図るように共通の認識を行うようにしている。	シフトのため、時間の調整がつかない場合は時間を作り、情報共有を行なっている。(朝礼、終礼に出席しない職員に対して申し送りノートを通し情報を共有している。)	情報提供が分かるようにツールを使って分かりやすくしていきたい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との地域交流がすくない。	コロナウイルスも落ち着いてきたので少しずつ交流を行なっていきたい。	地域の文化祭、清掃活動への参加、またこばんの他教室とのイベントの開催など、小さな活動から取り組んでいく。
2	親同士の交流がなく、保護者との情報交換する場がない。	コロナウイルスも落ち着いてきたので少しずつだが保護者会を開催していきたい。	年に1, 2回、保護者の親睦会を開き、職員と保護者のつながりや、親同士のつながりをより深いものにしていく。
3	放課後の児童活動時間が短く宿題の時間や活動の時間の短い。	充実した活動をもっと考えて支援していく。15分くらいの活動で5領域と照らし合わせて支援を提供していきたい。	児童の利用日の調整を行ない、集団での活動の支援を充実できるように考えていく。曜日ごとに5領域の活動が重複しないよう調整していく。